

**訪問看護師40人
エンゼルケア学ぶ
八戸で研修会**

青森県訪問看護ステーション連絡協議会三八支部(小山ちえ子支部長)はこのほど、八



戸大で研修会を開き、訪問看護師約40人が、在宅で亡くなる訪問看護利用者の死後処置や、家族の心のケアを学ぶ。八戸短大の出張講義の一環。同支部側の求めに、講師を務めた同短大看護学科の壬生寿子教授が応えた。

同支部によると、高齢化が進み、在宅での死後の皮膚や筋肉の変化を説明、表情の整え方などを指導し、参加者は熱心にメモを取りながら学んだ。小山支部長は「短大側の協力のおかげで、身近なテーマについて学ぶことができた。今後新しい知識や技術を身に付けたい」と話した。

みとりが増える中、エンゼルケアのニーズも高まっているという。壬生教授は「看護師にしかできないエンゼルケア」を訴え、家族と一緒に遺体をきれいにしたり、生前と同じような表情にメイクをしてあげたりすることで、家族の悲しみに寄り添い、サポートにつ

エンゼルケアについて学ぶ看護師たち

変化を説明、表情の整え方などを指導し、参加者は熱心にメモを取りながら学んだ。小山支部長は「短大側の協力のおかげで、身近なテーマについて学ぶことができた。今後新しい知識や技術を身に付けたい」と話した。